

第23回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評
小学3-4年生部門

●審査員 A

アジア大会に向けて、皆さんしっかり準備をされた演奏で感心しました。今後も自分の感じたものをどうやって音や響きにしていくかを考え、練習を積み重ねていってください。

●審査員 B

本日の演奏者のレベルは全体的に均一で、総じてかなり高いレベルであったといえるでしょう。本物の才能や音楽への感受性を示してくださった若いピアニストが多くいらっしゃいました。もし何かアドバイスできるとしたら、音楽性だけでは作品を深めるのに十分でないと感じて頂くことでしょうか。まずこれが基本となり、その上でアーティキュレーション、音楽やクライマックスを意識して構成すること、息継ぎ、そして体から余計な緊張感や筋肉のこわばりを取り除くことを考えなければなりません。音は腕から生み出されます。ですから、常に腕と指先が繋がっているという感覚をもちましょう。正しいテクニックというのは、音をきちんとコントロールできるということなのです。

●審査員 C

多くの方が素晴らしい音色で演奏されたことを嬉しく思います。しかし、アーティキュレーションや強弱の表現の幅を広げるなど、もっと多くの音色のバリエーションを探してみてください。時間の使い方については、マズルカでもポロネーズを含むどのような舞曲の場合でも、テンポ・ルバートをもっと自由に感じてください。

●審査員 D

コンテスタントそれぞれが、自分の音楽をしっかり奏でていました。会場での響き、左右のバランス、ペダリングなど、とても研究されている演奏が多かったと感じました。

●審査員 E

全体的にレベルの高さを感じました。クログススキのマズルカを演奏する方が多かったのも印象的でした。以前と比べて、テクニック面でも音楽のつくり方や響きの質等においてもレベルが上がっていると感じました。ただ、少数ですが、大きな音を出そうとして力んでしまう人もいたようです。更に全体のレベルの向上を願っております。

●審査員 F

年々レベルが上がり、立派な演奏ばかりでした。中一日で全国大会とアジア大会で同じ作品を演奏されるのは集中力が必要なのでは、と感じました。いつも新鮮な気持ちで作品に向き合ってください。